

年頭のごあいさつ

岐阜県林政部

部長 高井 哲郎



明けましておめでとうございます。

新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年6月に岐阜メモリアルセンター芝生広

場において開催しました「ぎふの木フェスタ」は、一昨年に引き続き2万人以上の来場があり、大盛況の中終了することができました。これもひとえに貴会並びに傘下の団体様のご協力の賜物であり、本年秋にも同様に開催する予定としておりますので、何卒よろしく申し上げます。

さて、現在日本は人口減少社会に突入し、岐阜県の人口も昭和58年以来初めて200万人を割り込みました。また、人口と同様に本県の森林技術者も減少傾向にあり、林業・木材産業の更なる発展のためには森林技術者の確保・育成が急務となっています。

こうした中、昨年4月に林業版ハローワーク機能を持つ「森のジョブステーションぎふ」を開設し、求職者と企業のマッチング、新規参入者の支援、通年での雇用の安定化の支援等を通じて人材の確保・育成・定着を総合的に進めております。

一方、本県の豊かな森林を守っていくためには、県民の皆様の森林・林業に対する理解を深めていただくことが重要となります。そのため、日本初の森林教育に関する総合教育施設である「森林総合教育センター（仮称）」の設立準備を昨年より県森林文化アカデミーで進めており、今夏から教育プログラムを試行する予定です。

また、平成29年度からスタートした「第3期岐阜県森林づくり基本計画」の「生きた森林づくり」におきまして、人口減少を見据えた県産材の国内外への需要拡大や、木材流通体制の強化等に取り組んでいるところであり、本年もより一層、積極的に取り組む所存でございます。

県内での需要拡大策としましては、公共施設

等の木造化・木質化を支援する「県産材需要拡大等整備事業」の対象施設の拡大や、県産材を使用した家づくりを進める「ぎふの木で家づくり支援事業」の採択要件の拡充等を図ります。

次に、県外への需要拡大策としては、昨年11月に県単独で「飛騨・美濃ウッドフェアin東京」を開催したほか、「Woodコレクション（東京都）」、「木と住まいの大博覧会（名古屋市）」等に出展したところです。本年も引き続きこのような出展を計画しており、首都圏・中京圏等の大規模消費地に向け東濃松、長良杉などをPRしてまいります。

さらに、海外への需要拡大策としては、昨年11月に台湾において県産材製品の常設展示会場「GIFU Taipei Wood Style」をオープンし、また本年2月には韓国最大級の住宅資材展示会に県内企業と連携して出展することとしており、今後もアジア圏を中心とした取り組みを積極的に進めてまいります。

開催まであと約1年半あまりに迫った東京オリンピック・パラリンピック競技大会については、「新国立競技場」「選手村ビレッジプラザ」での県産材利用が決定しており、さらなる利用促進に向けPR活動等を行ってまいります。ビレッジプラザで利用した木材は大会終了後に県へ戻る予定であり、本年はその再利用につつまして、木材業界関係者の皆様のご意見を伺いながら、具体的方法を検討してまいります。より効果的な再利用を図ることで、岐阜県内においても大会のレガシーを未来へ引き継いでいきたいと考えています。

また、一昨年より「中津川・白川・東白川地域」で取り組んでいる「林業成長産業化地域創出モデル事業」は、ICT等の活用による製品流通の効率化や高性能林業機械・流通加工施設の整備等による木材生産・加工の低コスト化等について事業展開を図ってまいります。

結びになりますが、本年が本県の森林・林業・木材産業の飛躍の年となりますよう祈念申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。